

令和 6 年度入学生 教育課程表 (R 6 __ 1 年次)

【A表】

	講座 番号	科目名	区分	科目 区分	種 別	1 年		農学科						畜産学科			
						単位	時間	作物	野菜	果樹	花	茶	農フード	畜フード	肉用牛	酪農	養豚
教養科目	全学科共通	101 ルビナスの時間Ⅰ															
		102 英会話Ⅰ	前	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		103 英語特別講義Ⅰ	特	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		104 保健・体育Ⅰ	特	履修	講義	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		105 農業基礎	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		106 数学基礎	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		107 実用数学 【開講なし】	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		108 くらしと科学	特	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		109 農業と化学	特	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		110 小論文演習Ⅰ	後	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		111 くらしと生活 (SPI)	後	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		112 情報処理基礎 (Excel 2 級)	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		113 情報処理演習 (Excel 1 級)	後	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		114 農業科教育法	特	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
専門科目	全学科共通・専攻別	115 総合実習	前	必修	実習	3	90	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		116 自主企画研修	後	必修	実習	4	120	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		117 アグリビジネスⅠ	全	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		118 インターンシップⅠ	前	必修	実習	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		119 農業経営	後	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		120 農業生産工程管理Ⅰ	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		121 農業機械基礎	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		122 大型特殊機械演習 (大特)	全	選択	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		123 農業簿記基礎	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		124 農業簿記演習	後	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		125 マーケティングⅠ	全	履・選	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲
		126 農業機械	後	選択	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		127 大型機械操作演習 (けん引)	全	選択	実技	1	30	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		128 ドローン操作基礎	前	選択	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		129 ドローン操作演習	特	選択	演習	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
専門科目 (農学)	学科共通・専攻別	130 会社経営Ⅰ	後	必・選	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	◎	◎	▲	▲	▲
		131 食品の機能性Ⅰ	後	履・選	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲
		132 食品衛生／食品表示	全	履・選	講義	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	○	○	▲	▲	▲
		133 農業概論	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
		134 スマート農業基礎(農)	全	必修	演習	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
		135 土壌肥料基礎	全	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎					
		136 農学専攻実習Ⅰ	全	必修	実習	9	270	◎	◎	◎	◎	◎					
		137 農学専攻特別実習Ⅰ	全	必修	実習	4	120	◎	◎	◎	◎	◎					
		138 有機農業概論	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎					
		139 G A P 演習Ⅰ	全	履修	演習	1	15	○	○	○	○	○					
		140 作物の栽培管理	全	必修	講義	1	15	◎									
専門科目 (畜産)	学科共通・専攻別	141 施設野菜の栽培管理	全	必修	講義	1	15		◎								
		142 果樹の栽培管理	全	必修	講義	1	15			◎							
		143 花きの栽培管理	全	必修	講義	1	15				◎						
		144 茶の栽培管理	全	必修	講義	1	15					◎					
		145 先進農業事例研究	全	履修	演習	1	15	○	○	○	○	○					
		146 茶の加工	全	必修	演習	1	15					◎					
		147 農業気象学	全	必修	講義	2	30	◎	◎	◎	◎	◎					
		148 病害虫基礎	全	必修	講義	2	30	◎	◎	◎	◎	◎					
		149 畜産概論	前	必修	講義	1	15							◎	◎	◎	◎
		150 スマート農業基礎(畜)	全	必修	講義	1	15							◎	◎	◎	◎
		151 畜産専攻実習Ⅰ	全	必修	実習	9	270								◎	◎	◎
専門科目 (フード)	専攻別	152 畜産専攻特別実習Ⅰ	全	必修	実習	5	150								◎	◎	◎
		153 家畜の栄養と飼料	全	必修	講義	2	30								◎	◎	◎
		154 家畜の飼養管理	前	必修	講義	1	15								◎	◎	◎
		155 家畜の育種と繁殖Ⅰ	全	必修	講義	2	30								◎	◎	◎
		156 人工授精演習	全	履修	演習	1	15								○	○	○
		157 G A P 演習Ⅰ(畜)	前	履修	演習	1	15								○	○	
		158 削蹄演習Ⅰ	後	選択	演習	1	15								▲	▲	
		159 フードビジネス専攻実習Ⅰ	全	必修	実習	7	210						◎	◎			
専門科目 (フード)	専攻別	160 フードビジネス専攻特別実習Ⅰ	全	必修	実習	5	150						◎	◎			
		161 食品製造 (理論)	後	必修	演習	1	15						◎	◎			
		162 食品化学Ⅰ	後	履修	講義	1	15						○	○			
		163 食品製造実習Ⅰ	後	必修	実習	1	30						◎	◎			
		164 フードビジネスⅠ	後	必修	講義	1	15						◎	◎			
		165 微生物活用Ⅰ	後	履修	演習	1	15						○	○			

※◎印は必修、○印は履修、▲印は選択

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	102	英会話I		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	基礎的な英語の能力、技能を養う								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	海外研修における簡単なあいさつ、日常会話ができるようになる								
使用教材	Nice to meet you								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			受講態度(減点)	
	基準	インタビューテスト、復習テスト、自己紹介スピーチにより90点満点で評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	Class Guidance						1		
2	Unit1 Classroom English: Getting to know Your Classmate						1		
3	Unit1 Reading1: The Culture of the English Classroom						1		
4	Unit2 What's your name? Example Conversations						1		
5	Unit2 What's your name? Speaking Practice						1		
6	Unit2 Reading2: The Magic Words						1		
7	Unit3 Where are you from? Questions and Answers						1		
8	Unit3 Where are you from? Example Conversations						1		
9	Unit3 Reading 3 Techniques for Speaking Naturally						1		
10	Unit4 What do you do? Ex. Conversations						1		
11	Unit4 What do you do? Speaking Practice						1		
12	Unit4 Reading 4 Using English outside the Classroom						1		
13	Writing Speech: Self-introduction / Unit 1-4 学習のまとめ						1		
14	Self-Introduction Speech						1		
15	Interview test / Review test						1	試験	
授業時間外に必要な学修	毎回の授業の復習を付属の音源を使って行う。また、次週の内容を音源を聴き予習する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	103	英語特別講義Ⅰ		学科名	全学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月
科目の概要	英文読解、和文英訳、時事英語など英語の理解を深め、編入学試験に対応した英語力を身につける。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	4年制大学編入学試験に対応できる英語力を身につける。								
使用教材	講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	英文読解、和文英訳、時事英語						1	夏期休業中に実施 （開催日時は、講師決定後に確定）	
2	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
3	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
4	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
5	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
6	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
7	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
8	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
9	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
10	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
11	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
12	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
13	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
14	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
15	試験、解説						1		
授業時間外に必要な学修	TOEICを受験する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	104	保健・体育 I		学科名	全学科	学年	1 年	学期	特別
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9 月～1 2 月
科目の概要	生涯スポーツの実践や健康について、理論と実践を通して学ぶ。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各スポーツの実践を通じて運動技能を高め、チームに貢献できる能力を養う。 保健では、自らの健康・安全についての理解を深め、健康を保持するための能力を養う。								
使用教材	農大施設 講師の準備する教材								
成績評価	方法	知識（9 0 点）			出席率（1 0 点）		受講態度（減点）		
	基準	講義終了後のレポートにより評価する。 演習状況も知識の一部として勘案する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	各スポーツの基本技術習得						1		
2	各スポーツの基本技術習得						1		
3	各スポーツの基本技術習得						1		
4	試合形式による各スポーツの実践						1		
5	試合形式による各スポーツの実践						1		
6	試合形式による各スポーツの実践						1		
7	試合形式による各スポーツの実践						1		
8	試合形式による各スポーツの実践						1		
9	試合形式による各スポーツの実践						1		
10	試合形式による各スポーツの実践						1		
11	試合形式による各スポーツの実践						1		
12	試合形式による各スポーツの実践						1		
13	試合形式による各スポーツの実践						1		
14	試合形式による各スポーツの実践						1		
15	生涯を通じる健康についての講話						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	105 選択A	農業基礎		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～9月
科目の概要	農業高校以外的高校から入学している学生に、県内で栽培される作物及び畜産の基礎について学習する。								
講師名	長友一弘						実務経験のある教員等 による授業科目	○	
到達目標	農業及び環境に関する学習について興味・関心を高めると共に、科学的思考力と課題解決能力を育成し、農業及び環境に関する基礎的な知識と技術を習得させ、農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。								
使用教材	テキスト:宮崎の農業（高鍋農業高校）、農業の基礎、作物栽培の基礎、野菜栽培の基礎（農文教）、他参考資料								
成績評価	方法	知識（テスト）		知識（復習プリント）		レポート		取組評価	
	基準	作問は100点満点、評価は80点とする。		評価10点 取組状況を5段階に分けて評価 A：10点 B：8点 C：6点 D：4点 E：2点		評価5点 ノート、レポートを5段階で 評価 A：5点 B：4点 C：3点 D：2点 E：1点		講義中の取組・態度で評価する。 良い：最大+5点 悪い：最大-5点	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	○マンゴーについて ○作物の種類と分類について						1		
2	○復習プリント（マンゴー、作物の種類と分類） ○イネ①						1		
3	○復習プリント（イネ①） ○イネ②						1		
4	○復習プリント（イネ②） ○イネ③						1		
5	○復習プリント（イネ③） ○イネ④						1		
6	○復習プリント（イネ④） ○講義（トウモロコシ①）						1		
7	○復習プリント（トウモロコシ①） ○講義（トウモロコシ②）						1		
8	○復習プリント（トウモロコシ②） ○講義（サツマイモ）						1		
9	○復習プリント（総合問題）						1		
10	復習プリント（総合問題）						1		
11	○復習プリント（サツマイモ） ○ジャガイモ						1		
12	○復習プリント（ジャガイモ） ○トマト						1		
13	復習プリント（トマト） ○畜産（肉用牛）						1		
14	○復習プリント（肉用牛）						1		
15	テスト						1		
							15		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	総合評価で60点以下の場合は、9月に再試験を行う。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	106 選択A	数学基礎		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	数学における基本的な概念や原理・原則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を再度培う。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識すると共に、それらを活用する態度を育てる。								
使用教材	プリント								
成績評価	方法	知識（テスト）		知識（小テスト）		出席率（10点）		取組（態度等）	
	基準					出席率に応じた係数を乗じた 点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物によ り20点を上限として減ず る。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	四則計算等の計算法則「4つの4を使って数字（1から10の数）をつくれ」					1	プリントNo. 1		
2	文字式の計算（指数法則、式の展開、因数分解）その1					1	プリントNo. 2, 3		
3	文字式の計算（指数法則、式の展開、因数分解）その2, 計算の工夫					1	プリントNo. 4、5		
4	数の種類（自然数、整数、有理数、無理数、実数の性質）					1	プリントNo. 6、7		
5	無理数の計算 その1					1	プリントNo. 8, 9		
6	無理数の計算 その2					1	プリントNo. 10		
7	1次不等式を解く					1			
8	集合					1			
9	関数とグラフ					1			
10	2次関数 その1					1			
11	2次関数 その1					1			
12	三角比					1			
13	三角形への応用					1			
14	復習					1			
15	テスト					1			
授業時間外に 必要な学修									
再試験及び補 習対象の実施 基準									

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	107 選択A	実用数学		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	高校までに学んだ数学力を、農業の現場で生かすために必要な考え方・使い方を身に付ける。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	農業における作付け計画から栽培管理、収穫量測定その他、データ分析に必要な知識と対応力を身につける。 各授業における理解度によって時間調整を行う。								
使用教材	講師が農業高校で使用する教材								
成績評価	方法	知識（テスト）		開講なし				取組（態度等）	
	基準	80点 学習した内容を理解している か評価する 100点満点の評価を80点 （％）に換算する						5点 ・授業中の態度 （減点:私語、居眠り、スマ ホ） ・課題等の取組 ・質問に対する回答する態 度等 （間違った回答でも良い）	
	授業の計画（授業の回数やスケジュール）								
回	内 容					時間	備 考		
1	植物の生長、発芽率計算					1	事前説明、講義		
2	前時の復習（小テスト）、イネの生育、登熟歩合・秀品率計算					1	講義、小テスト		
3	前時の復習（小テスト）、植物の生長と温度、日長の測定等					1	講義、小テスト		
4	前時の復習（小テスト）、溶液濃度計算（倍溶液、％溶液、ppm濃度）					1	講義、小テスト		
5	前時の復習（小テスト）、農薬の種類、農薬計算					1	講義、小テスト		
6	前時の復習（小テスト）、農薬計算					1	講義、小テスト		
7	前時の復習（小テスト）、面積計算					1	講義、小テスト		
8	前時の復習（小テスト）、栽植株数計算					1	講義、小テスト		
9	前時の復習（小テスト）、栽植株数計算					1	講義、小テスト		
10	前時の復習（小テスト）、肥料、肥料（単肥）計算					1	講義、小テスト		
11	前時の復習（小テスト）、肥料（複合肥料）計算					1	講義、小テスト		
12	前時の復習（小テスト）、肥料（複合肥料）計算					1	講義、小テスト		
13	前時の復習（小テスト）、肥料（複合肥料＋単肥）計算					1	講義、小テスト		
14	前時の復習（小テスト）、肥料（複合肥料＋単肥）計算					1	講義、小テスト		
15	評価試験					1	テスト		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	・小テストで理解状況が悪い学生には別途指導する場合あり。 ・試験（ペーパー）で正答率が50％以下の場合は、正解を公表後に期日指定で再試験（ペーパー）を行う。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	108 選択B	暮らしと科学		学科名	農学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	1 2 ～ 3 月
科目の概要	農業と科学の結びつきは、農業の発展と維持可能性を支える重要な要素である。この化学や物理の活用術を理解すると共に関係法令などにも理解を深める。また危険物取扱についての基礎的な知識と技術を習得させ、燃焼等での活用する能力と態度を育てる。								
講師名	農大職員							実務経験のある 教員等による授 業科目	
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により 20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	物理学と化学の基礎知識						1		
2	物理学と化学の基礎知識						1		
3	物理学と化学の基礎知識						1		
4	燃焼の基本知識①						1		
5	燃焼の基本知識②						1		
6	消化に関する基礎知識①						1		
7	消化に関する基礎知識②						1		
8	危険物の性質並びにその火災予防および消火方法						1		
9	第4類危険物以外の危険物概論						1		
10	第4類危険物の概論						1		
11	危険物に関する法令						1		
12	消防法						1		
13	危険物の規制に関する政令						1		
14	危険物の規制に関する規制						1		
15	テスト						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	108	くらしと科学		学科名	農学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期
科目の概要	農業と科学の結びつきは、農業の発展と維持可能性を支える重要な要素である。この化学や物理の活用術を理解すると共に関係法令などにも理解を深める。また危険物取扱についての基礎的な知識と技術を習得させ、燃焼等での活用する能力と態度を育てる。								
講師名	農大職員							実務経験のある教員等による授業科目	
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	物理学と化学の基礎知識						1		
2	物理学と化学の基礎知識						1		
3	物理学と化学の基礎知識						1		
4	燃焼の基本知識①						1		
5	燃焼の基本知識②						1		
6	消化に関する基礎知識①						1		
7	消化に関する基礎知識②						1		
8	危険物の性質並びにその火災予防および消火方法						1		
9	第4類危険物以外の危険物概論						1		
10	第4類危険物の概論						1		
11	危険物に関する法令						1		
12	消防法						1		
13	危険物の規制に関する政令						1		
14	危険物の規制に関する規制						1		
15	テスト						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	109	農業と化学		学科名	農学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	
科目の概要	農薬を安全かつ効果的に使用するために基本的なガイドラインを理解する。また毒物劇物取扱についての基礎的な知識と技術を習得させ、農薬の各分野で活用する能力と態度を育てる。								
講師名	農大職員						実務経験のある教員等による授業科目		
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）		出席率（10点）		学習態度（減点）			
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	植物の防疫について					1			
2	農薬の種類について					1			
3	農薬に関する法令					1			
4	農薬に関する法令					1			
5	毒物劇物取締法等の関係法令					1			
6	毒物劇物取締法等の関係法令					1			
7	病虫害・雑草防除法等					1			
8	農薬の安全性評価及び各種基準の設定					1			
9	農薬の安全使用について					1			
10	危害防止対策等					1			
11	毒性と解毒剤、貯蔵方法等					1			
12	実地（性状、貯蔵、取扱方法等）					1			
13	実地（性状、貯蔵、取扱方法等）					1			
14	実地（性状、貯蔵、取扱方法等）					1			
15	テスト					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	109 選択B	農業と化学		学科名	農学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	1 2 ～ 3 月
科目の概要	農薬を安全かつ効果的に使用するために基本的なガイドラインを理解する。また毒物劇物取扱についての基礎的な知識と技術を習得させ、農薬の各分野で活用する能力と態度を育てる。								
講師名	農大職員						実務経験のある 教員等による授 業科目		
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	植物の防疫について						1		
2	農薬の種類について						1		
3	農薬に関する法令						1		
4	農薬に関する法令						1		
5	毒物劇物取締法等の関係法令						1		
6	毒物劇物取締法等の関係法令						1		
7	病虫害・雑草防除法等						1		
8	農薬の安全性評価及び各種基準の設定						1		
9	農薬の安全使用について						1		
10	危害防止対策等						1		
11	毒性と解毒剤、貯蔵方法等						1		
12	実地（性状、貯蔵、取扱方法等）						1		
13	実地（性状、貯蔵、取扱方法等）						1		
14	実地（性状、貯蔵、取扱方法等）						1		
15	テスト						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	110 選択C	小論文演習 I		学科名	全学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～2月
科目の概要	就職試験において必要となる文章表現・スピーチの方法、小論文対策								
講師名	愛甲祐子（文章表現・スピーチ・小論文対策）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・エントリーシートの書き方、面接の受け方を身につける ・進学に必要な小論文の書き方を身につける								
使用教材	講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	文章表現・スピーチ①						1		
2	文章表現・スピーチ②						1		
3	文章表現・スピーチ③						1		
4	文章表現・スピーチ④						1		
5	文章表現・スピーチ⑤						1		
6	文章表現・スピーチ⑥						1		
7	文章表現・スピーチ⑦						1		
8	小論文対策①						1		
9	小論文対策②						1		
10	小論文対策③						1		
11	小論文対策④						1		
12	小論文対策⑤						1		
13	小論文対策⑥						1		
14	小論文対策⑦						1		
15	小論文対策試験						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	111 選択C	くらしと生活		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～2月
科目の概要	卒業後の社会生活に向けて自己探求やコミュニケーション能力を高め、社会一般常識に関する知識を学ぶ								
講師名	外部講師2名（探求・コミュニケーション、社会一般常識）							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・就職試験に対応できる社会一般常識を身につける ・社会生活に向けて自分を見つめ、社会生活に対応できるコミュニケーションスキルを高める								
使用教材	講師が準備した資料、SPIベーシック								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	自己探求・表現とコミュニケーション①						1		
2	自己探求・表現とコミュニケーション②						1		
3	自己探求・表現とコミュニケーション③						1		
4	自己探求・表現とコミュニケーション④						1		
5	自己探求・表現とコミュニケーション⑤						1		
6	自己探求・表現とコミュニケーション⑥						1		
7	自己探求・表現とコミュニケーション⑦						1		
8	自己探求・表現とコミュニケーション⑧						1		
9	就職試験対策一般常識①						1		
10	就職試験対策一般常識②						1		
11	就職試験対策一般常識③						1		
12	就職試験対策一般常識④						1		
13	就職試験対策一般常識⑤						1		
14	就職試験対策一般常識⑥						1		
15	就職試験対策一般常識試験⑦						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和 6 年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	112	情報処理基礎			学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義・演習		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	情報化社会において必要となる、パソコンを利用した基礎的・基本的な情報処理能力を修得し、今後農業に活用できる力を身に付ける									
講師名	農業大学校職員									
到達目標	日検情報処理技能検定２級を取得できる能力を身に付ける。 卒業論文等で活用できる、農業データをまとめる技術を修得する。									
使用教材	日検情報処理検定問題集									
成績評価	方法	知識・技術（９０点）			出席率（１０点）		学習態度（減点）			
	基準	知識や操作技術を問う試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・無欠席……………（1.0） ・１回欠席……………（0.9） ・２～３回欠席…………（0.8） ・４回欠席……………（0.7） ・５回以上……………未履修		２０点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内容						時間	備考		
1	情報処理能力の確認（入力）及びアンケート調査						1			
2	excelの基本操作						1			
3	excelの基本操作						1			
4	３級レベル（判断文）						1			
5	３級レベル（判断文、絶対参照、構成比率）						1			
6	３級レベル（端数処理関数、順位付け、ソート）						1			
7	３級基準、グラフ作成						1			
8	表検索の活用						1	(2級（レベル）)		
9	表検索の応用						1	(2級（レベル）)		
10	多重判断文の活用						1	(2級（レベル）)		
11	多重判断文の応用						1	(2級（レベル）)		
12	論理演算子、セル証明の活用						1	(2級（レベル）)		
13	論理演算子、セル証明の応用						1	(2級（レベル）)		
14	時刻計算等						1	(2級（レベル）)		
15	知識及び実技試験（２級レベル）						1	(2級（レベル）)		
授業時間外に必要な学習	日検情報処理検定１級または、初段保持者については、マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS試験）の資格取得に向けて、課外を行い資格取得を目指す。情報処理の検定については放課後に実施する。 夏休みの課題として、毎年実施されるヤンマー作文コンクール用の原稿を作成し、全員応募する。									
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和 6 年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	113	情報処理演習			学科名	全学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義・演習		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	10～3 月
科目の概要	情報化社会において必要となる、パソコンを利用した基礎的・基本的な情報処理能力を修得し、今後農業に活用できる力を身に付ける									
講師名	農業大学校職員									
到達目標	日検情報処理技能検定 1 級を取得できる能力を身に付ける。 卒業論文等で活用できる、農業データをまとめる技術を修得する。									
使用教材	日検情報処理検定問題集									
成績評価	方法	知識・技術（90 点）			出席率（10 点）		学習態度（減点）			
	基準	知識や操作技術を問う試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・無欠席……………（1.0） ・1 回欠席……………（0.9） ・2～3 回欠席…………（0.8） ・4 回欠席……………（0.7） ・5 回以上……………未履修		20 点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内容					時間	備考			
1	excelの基本操作					1				
2	2 級基準の応用活用					1				
3	2 級基準の応用					1				
4	表検索の応用					1	（1 級レベル）			
5	多重判断文の応用					1	（1 級レベル）			
6	多重判断文の応用					1	（1 級レベル）			
7	データベース関数の活用					1	（1 級レベル）			
8	データベース関数の応用					1	（1 級レベル）			
9	データベース関数の応用					1	（1 級レベル）			
10	文字列操作関数の活用					1	（1 級レベル）			
11	文字列操作関数の応用					1	（1 級レベル）			
12	特殊関数の活用、高度なグラフ作成					1	（1 級レベル）			
13	データ処理の応用					1	（1 級レベル）			
14	データ処理の応用					1	（1 級レベル）			
15	知識及び実技試験（1 級レベル）					1	（1 級レベル）			
授業時間外に必要な学習										
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	114	農業科教育法		学科名	全学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月
科目の概要	実習助手になるために必要な講義と演習を行う。								
講師名	副校長（教育）長友一弘						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農業高校で実習指導を行うために必要な知識技術を習得するとともに、農業学習で人材育成するための教科指導、生徒指導等を身につける。								
使用教材	高等学校学習指導要領（農業編）、農業高校で使用する農業科目の教科書、第8次宮崎県農業・農村振興長期計画								
成績評価	方法	知識（テスト）		知識（農業鑑定）		レポート		演習	
	基準	ペーパー 50点		農業鑑定（共通）10点 PowerPointプレゼン形式で1問15秒で行う。（計算問題のみ40秒）		生徒指導、特別支援教育、コンプライアンス、働き方改革 5点×4回		総合実習模擬授業 20点 10点×2回	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	講義「公務員とは」「地方公務員法」					1			
2	講義「理想の教師像」「四者悟入」					1			
3	講義「実習助手」「実習助手の取組」					1			
4	講義「特別支援教育」「生徒指導」→ レポート提出					1			
5	講義「コンプライアンス」→ レポート提出					1			
6	講義「働き方改革」→ レポート提出					1			
7	第1回テスト					1			
8	講義「農業と環境」「総合実習」					1			
9	演習「農業と環境」の模擬授業					1			
10	演習「総合実習」の模擬授業					1			
11	講義「農業クラブ」					1			
12	演習「農業クラブ」の模擬授業					1			
13	演習「農業鑑定」					1			
14	講義「農場運営・管理」「栽培・飼育・生産計画」「特別会計」					1			
15	第2回テスト					1			
計						15			
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	総合評価で60点以下の場合は、9月に再試験を行う。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	115	総合実習		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	4月～6月
科目の概要	・各専攻品目（作物、野菜、果樹、花、茶、フード）の基本的な栽培管理技術、知識を学ぶ。								
講師名	農業大学校 指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・農産物の生産技術や経営技術の基礎、フードビジネスの基礎技術を習得する。								
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		学習態度（減点）	
	基準	各専攻実習時の知識の習得状況について、各職員がチェックし、評価する。		各専攻実習のの取り組み及び技術習得状況について、各職員がチェックし、評定する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。		実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～90	各専攻品目の栽培管理等						90		
	●作物、野菜、花、果樹、フードビジネスの各専攻を4班に分かれローテーションで実習実施								
	●茶は、7月に2時間 茶業支場で実施								
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	115	総合実習		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	4月～6月
科目の概要	・肉用牛、乳用牛及び豚の基本的な飼養管理技術や加工技術を学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員 ・外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術、加工技術の基礎を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
回	内 容						時間	備 考	
1～30	家畜の飼養管理等						30		
31～60	家畜の飼養管理等						30		
61～90	家畜の飼養管理等						30		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	116	自主企画研修		学科名	全学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	10月
科目の概要	高度な栽培技術・飼育技術、最新の加工・流通・販売に関する技術及び関連する経営概要を実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人、農産物の加工・流通・販売を行う農業生産法人や一般企業の職員等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・先進的な農家や農業生産法人における栽培技術・飼育技術や経営概要、農産物の加工・流通・販売に関係する技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者や農産物の加工・流通・販売の従事者等との交流をとおして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書(30点)		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 A（良い）2点/1日 B（普通）1点/1日 C（悪い）0点/1日 で採点し、0. 2 5 を乗ずる。		・提出 提出有り：10点 提出無し： 0点 ・内容 ※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（悪い） 5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1 日 目 ～ 1 5 日 目	・研修先が立地する地域農業の概要について学ぶ。 ・研修先の経営概要について学ぶ。 ・研修先の経営や業務に対する考え方や取組について学ぶ。 ・高度な栽培、飼育、加工に関する技術や販売方法について学ぶ。					9 0 時間	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。		
1 6 日 目 ～ 2 0 日 目	・高度で実践的な栽培、飼育、加工に関する知識や技術を学ぶとともに販売方法について学ぶ。 ・講師等との意見交換をとおして、経営感覚やリーダーシップを高める方法や地域づくりのビジョン構築等について情報を収集する。					3 0 時間	・説明等を講義形式で行う場合がある。		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	117	アグリビジネスⅠ		学科名	全学科	学年	全学年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6～1月
科目の概要	アグリビジネス分野で活躍されている経営者や関係機関の専門家を講師として招聘し、アグリビジネスの最前線について学習する。その中で企業にいたるまでの経緯や経営理念等からアグリビジネスを成功させるためのポイントや手法について学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	アグリビジネスの現状と課題について理解を深める								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識（70点）			出席率（10点）			学習態度（20点）	
	基準	講義ごとのレポートまたは試験により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	アグリビジネスに関する講話① 児湯農林振興局次長 戸高玲子 氏						2		
2	アグリビジネスに関する講話② 桑原農園 桑原慎太郎 氏						2		
3	アグリビジネスに関する講話③ pioneer pork 代表 有方 草太郎 氏						2		
4	アグリビジネスに関する講話④ Synergy farm 西岡征志郎 氏						2		
5	アグリビジネスに関する講話⑤ （一社）みやぎん経済研究所 野崎貴士 氏						2	調整中	
6	アグリビジネスに関する講話⑥ （株）JAMPS 山本大輔 氏						2	調整中	
7	アグリビジネスに関する講話⑦ （有）新福青果 代表取締役社長 新福太郎 氏						2	調整中	
8	アグリビジネスレポート						1		
9									
10									
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	118	インターンシップ I		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	5月下旬
科目の概要	農業生産現場において、栽培・飼育技術や経営概要等について実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・先進的な農家や農業生産法人における栽培・飼育技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者等との交流をとおして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書(30点)		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 A（良い）2点/1日 B（普通）1点/1日 C（悪い）0点/1日		・提出 提出有り：10点 提出無し：0点 ・内容 ※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（悪い）5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	・研修先の経営概要について学ぶ。 ・先進農家等の農業に対する考え方や取組について学ぶ。 ・実習をとおして基本的な栽培・飼育技術について学ぶ。					18時間	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。		
4日目 ～ 5日目	・実習や見学をとおして高度な栽培・飼育技術について学ぶ。 ・講師等との意見交換をとおして、農業経営について情報を収集する。					12時間	・説明等を講義形式で行う場合がある。		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	119	農業経営		学科名	農学科・畜産学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～3月
科目の概要	農業経営の設計と管理について学習させる科目であり、農業の動向や農業経営の役割など、農業経営の現状や今日的な課題等に関心を持たせ、農業経営を実践する楽しさや意欲を醸成する。また、学習させる経営事例は地域農業やその他の産業の実態等を考慮して行う。								
講師名	総合農業試験場専門技術センター担当 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、コスト管理とマーケティングの必要性を理解させると共に、経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。								
使用教材	・農業の経営と生活（農文協） ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験及びレポートにて、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			知識（90点）出席率（10点）から、講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	日本農業の発展と特徴					1	農業大学校指導職員		
2	農業生産の要素と農業経営の目標					1			
3	農業の諸要素、経営活動の成果とその捉え方					1			
4	◆評価試験①					1			
5	農業経営管理指針の解説					1			
6	農業経営管理指針の解説と活用					1			
7	農業経営の仕組み（個人経営の特徴）と経営計画の作成について					2	総合農業試験場 専門技術センター		
8									
9	経営診断の方法、経営改善の手法について （レポート）					2			
10									
11	本県JAグループの組織概要、業務内容、取り組み （レポート）					2	JA宮崎中央会		
12									
13	農業関連産業の経営と成長戦略 （レポート）					2	民間企業職員		
14									
15	◆評価試験②					1	農業大学校指導職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	県立農業大学校管理運営要領、第2章学習に関する規則、第2節成績評価の第30条～39条を基に評価する。出席70%以上を要する。また、必要に応じて承認を得た者は追試または再試を1回限り実施する。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	120	農業生産工程管理Ⅰ		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてGAPの考え方を学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業生産工程管理（GAP）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得させる。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	GAPの基礎①					1	農業大学校指導職員		
2	GAPの基礎②					1			
3	国内外のGAPを取り巻く状況					1			
4	GAPの認証と導入					1			
5	リスク分析の考え方					1			
6	生産工程におけるリスク分析					1			
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析					1			
8	労働安全のリスク分析					1			
9	試験					1			
10	ひなたGAPチェックリストの解説①					1			
11	ひなたGAPチェックリストの解説②					1			
12	ひなたGAPチェックリストの解説③					1			
13	AS I A GAPチェックリストの解説①					1			
14	AS I A GAPチェックリストの解説②					1			
15	AS I A GAPチェックリストの解説③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	121	農業機械基礎		学科名	全学科	学年	1	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～5月
科目の概要	草刈り機取り扱いと基礎知識の取得。運搬車の操作方法、ローダの操作方法、トラクターによるロータリー実演の習得								
講師名	農業機械						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	安全衛生教育、小農器具の取扱と操作、トラクター実演の習得								
使用教材	刈り払い機（講習テキスト）								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	刈払い機に関する知識（学科）						1時間		
2	刈払い機を使用する作業に関する知識（学科）						1時間		
3	刈払い機の点検及び整備に関する知識（学科）						1時間		
4	振動障害及びその予防に関する知識（学科）						1時間		
5	関係法令（学科）						1時間		
6	草刈り機の作業（実技）						1時間		
7	ロータリー、ローダの構造と点検整備・運転操作（実技）						1時間		
8	〃						1時間		
9	〃						1時間		
10	トラクターの運転操作・運搬車、動力噴霧器の取扱（実技）						1時間		
11	〃						1時間		
12	〃						1時間		
13	草刈り機刃の取り付け作業とメンテナンス（実技）						1時間		
14	圃場での草刈り演習（実技）						1時間		
15	〃						1時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	122	大型特殊機械演習		学科名	全学科	学年	1	学期	全期
授業の方法	演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5～7月
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。								
講師名	農業機械						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。								
使用教材	なし								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。試験に合格			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	トラクターの操作方法及び運転実習						1時間		
2	〃						1時間		
3	〃						1時間		
4	免許試験コースの説明、技能コースの説明及び運転実技						1時間		
5	〃						1時間		
6	〃						1時間		
7	免許試験コースの運転練習及び評価						1時間		
8	〃						1時間		
9	〃						1時間		
10	〃						1時間		
11	〃						1時間		
12	〃						1時間		
13	〃						1時間		
14	〃						1時間		
15	〃						1時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	なし								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	123	農業簿記基礎		学科名	農学科 畜産学科	学年	1	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～6月
科目の概要	・農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と精算表、決算までの農業簿記の一連の流れを学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・農業簿記の基礎を理解する。 ・農業簿記検定3級取得レベルを目指す。								
使用教材	・農業簿記検定教科書3級（大原出版） ・農業簿記検定問題集3級（大原出版）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	簿記の意義、記帳から決算までの流れ					1	農業大学校指導職員		
2	貸借対照表及び損益計算書の意味と構成					2			
3	取引と勘定、帳簿					3			
4	仕訳					4			
5	仕訳					5			
6	収益と費用					6			
7	収益と費用					7			
8	資産、負債、資本					8			
9	資産、負債、資本					9			
10	建物・農機具の減価償却の計算法					10			
11	決算書作成					11			
12	農業簿記の特徴と決算書の見方					12			
13	試験対策 ①					13			
14	試験対策 ②					14			
15	試験					15			
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習、講師から出される課題（農業簿記検定 7月及び11月）								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和 6 年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	124	農業簿記演習		学科名	農学科 畜産学科	学年	1	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9～11月
科目の概要	農業簿記基礎で学んだ内容（農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と精算表、決算までの農業簿記の一連の流れ）について理解を深め、農業簿記検定３級の合格レベルまで到達する。								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農業簿記検定３級取得レベルを目指す。								
使用教材	・ 農業簿記検定教科書３級（大原出版） ・ 農業簿記検定問題集３級（大原出版）								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席率（１０点）		受講態度（減点）		
	基準	資格取得検定を受検し、資格取得を目指す。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	試験対策 ①						1	農業大学校指導職員 杉野、野田、田中	
2	試験対策 ②						1		
3	試験対策 ③						1		
4	試験対策 ④						1		
5	試験対策 ⑤						1		
6	試験対策 ⑥						1		
7	試験対策 ⑦						1		
8	試験対策 ⑧						1		
9	試験対策 ⑨						1		
10	試験対策 ⑩						1		
11	試験対策 ⑪						1		
12	試験対策 ⑫						1		
13	試験対策 ⑬						1		
14	試験対策 ⑭						1		
15	試験（農業簿記検定）						1		
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習、講師から出される課題（農業簿記検定 １１月）								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	125	マーケティング I		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	演習	区分	選択 履修(フードビ ジネス専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～9月
科目の概要	マーケティングの基礎知識や商品デザイン、販売戦略、原料調達などの一連の工程を体系的に学ぶ。 商品開発に向けた各工程の課題整理や計画・実績に関する議論、進捗管理を行い、商品開発・販売の手法を学ぶ。								
講師名	外部講師 県立農業大学校 フードビジネス専攻						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	1年時に、企業が実際に行う商品開発に準じた手法を学修し、全体的なプロセスを認識することで、 1年生後期から2年生の商品開発までのプロセスを体系的に計画・実践する力を身に付ける。								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方 法	知識(90点)			出席点(10点)		学習態度(減点)		
	基 準	講義後の発表やグループワークで作成する分析シートなどの内容と 毎回の講義後に提出するレポート で評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数 とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評 価し、20点を上限として以下の係数を 乗じて減点する。 A:問題のない授業態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	現状分析・課題整理 及び 最終目標の設定の手法について 宮崎(または宮崎農大)と日本農業(食)のいまと未来を分析する ・SWOT分析、競争要因分析 ・グループワーク・発表						3		
2	マーケティング＝顧客を教育、育てることで売り込みを不要とする ・プル、プッシュマーケティング戦略 4P、4C、3Cの視点 ・STP戦略 ①商品のカテゴリ設定 ②ターゲット設定 ③差別化要素を考慮した商品開発、営業の重要性 ・グループワーク・発表						3		
3	新商品開発・販売戦略シート作成について ・1～2回までの演習で検討された新商品開発案について各自でテ ーマをしぼる ・しぼったテーマによる「SWOT分析」「4P分析」の個人ワークを行う ・マーケティング戦略の視点で新商品のブラッシュアップについて、意 見やアイディアの洗い出しを行い販売戦略シートを作成する ・グループワーク・発表						3		
4	新商品開発・販売会議の実践 ・3回の演習で個人ワークで作成した販売戦略シートの中から各班で 代表1商品を選び、グループでさらに分析や意見・アイディアの洗い出し を行う。 ・個人ワークでは出なかった新たな視点で商品を多角的に分析する手 法を学ぶ						3		
5	市場調査の手法について (例えばテーマを決めて、学校近隣のマンマルシェを調査先として依 頼) (校外視察研修を設ける) ・グループワーク・発表						3		
授業時間外 に必要な学 修	本講義は演習を基本とし、商品試作・製造やマーケティング活動等に関する実習を行う場合、別途専攻特別実習等 で行う。								
再試験及び 補習対象の 実施基準									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	126	農業機械		学科名	全学科	学年	1	学期	後期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	1月
科目の概要	農業機械（農業機械全般に関するテスト、ノギスの使用方法、工具の取扱、トラクターの整備、プラウの着脱）農業機械に関する安全研修。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	1年間の農業機械に関する知識が備わっているか、安全に操作出来ているか。								
使用教材	農業機械（教本）								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	各項目ごとにペーパーと実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	工具の取扱い(講義・実習)						1時間		
2	トラクターの構造・点検(講義・実習)						1時間		
3	トラクターの整備（実習）						1時間		
4	トラクターの構造・点検・整備（学科試験）						1時間		
5	工具の取扱い(実技試験)						1時間		
6	〃						1時間		
7	トラクターへのプラウの着脱・調整（実習）						1時間		
8	〃						1時間		
9	〃						1時間		
10	〃						1時間		
11	プラウの着脱・調整（実技試験）						1時間		
12	〃						1時間		
13	トラクターの安全走行（斜面走行）（演習）						1時間		
14	〃						1時間		
15	農作業安全の基本（DVD視聴、農機具メンテナンス）						1時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	127	大型機械操作演習 (けん引)		学科名	全学科	学年	1	学期	全期
授業の方法	実技	区分	選択	単位数	1	時間数	30	開講時期	11～12月
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。								
使用教材	なし								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）	
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	トラクターの操作方法及び運転実習						2時間		
2	〃						2時間		
3	〃						2時間		
4	〃						2時間		
5	免許試験コースの説明、技能コースの説明及び運転実技						2時間		
6	〃						2時間		
7	〃						2時間		
8	〃						2時間		
9	〃						2時間		
10	〃						2時間		
11	〃						2時間		
12	免許試験コースの運転練習及び評価						2時間		
13	〃						2時間		
14	〃						2時間		
15	〃						2時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	なし								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	128	ドローン操作基礎		学科名	全学科	学年	1 年	学期	特別
授業の方法	講義・演習		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期 6月～8月
科目の概要	農業散布用ドローンの散布資格を取得を目的としています。ドローンの基礎知識や法令を学びながら、トイドローンの操作演習も行い資格取得をします。								
講師名	農業大学校職員（ドローンインストラクター）					実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	農業用ドローンの散布資格を取得することを目的とします。 ドローン検定3級の資格も同時に資格取得を目指します。								
使用教材	D J I A G R A S 教習所学科テキスト（U T C 農業ドローン協議会指定） ドローン検定の教科書（3級）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。（試験に合格しない場合は、資格を取得することができません）			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする。 資格試験のため、公欠でも別途講義を受ける必要があります。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内容					時間	備考		
1	ドローンの基礎知識①					1			
2	ドローンの基礎知識②					1			
3	航空法					1			
4	散布飛行の知識					1			
5	農業の知識					1			
6	作物保護の知識					1			
7	散布飛行の練習①（トイドローンを使った操作演習）					1			
8	散布飛行の練習②（トイドローンを使った操作演習）					1			
9	散布飛行の練習③（トイドローンを使った操作演習）					1			
10	試験に向けた復習 テスト					1			
11	最新機種（Tシリーズ）の知識					1			
12	最新機種（Tシリーズ） テスト					1			
13	ドローンの自動航行について					6			
14	ドローンの自動航行に関するテスト					6			
15	ドローンの教習に向けて					6			
授業時間外に必要な学習	農業散布用ドローン資格取得のため、公欠である場合は補講を行う必要があります。 講義を受講していないと筆記テストを受験することができません。 基礎知識の定着のため、ドローン検定3級の資格を取得することを推奨します（別途案内があります）。								
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。 ドローンの研修については、気象条件により、日程が変更する可能性があります。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]										
科目名	129	ドローン操作演習			学科名	全学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義・演習		区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月
科目の概要	農薬散布用ドローンの散布資格を取得を目的としています。ドローンの基礎知識や法令を学びながら、操作の演習も行い資格取得をします。実散布研修は、地元の業者に協力をお願いし本格的な散布研修を行います。									
講師名	農業大学校職員（ドローンインストラクター）、南榮工業株式会社						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	農業用ドローンの散布資格を取得することを目的とします。ドローン検定3級の資格も同時に資格取得を目指します。									
使用教材	D J I A G R A S 教習所学科テキスト（U T C農業ドローン協議会指定） ドローン検定の教科書（3級）									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。 （実散布研修も試験を行います。試験に合格しない場合は、資格を取得することができません）			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする。 資格試験のため、公欠でも別途講義を受ける必要があります。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内容						時間	備考		
1～15 （3日間）	農薬散布用ドローン 手動航行						5	夏期休業中		
	手動航行 散布試験						5			
	自動航行 自動航行による散布について						5			
授業時間外に必要な学習	農薬散布用ドローン資格取得のため、公欠である場合は補講を行う必要があります。 講義を受講していないと筆記テストを受験することができません。 基礎知識の定着のため、ドローン検定3級の資格を取得することを推奨します（別途案内があります）。									
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。 ドローンの研修については、気象条件により、日程が変更する可能性があります。									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	130	会社経営Ⅰ (フード必修・他選択)		学科名	全学科 フードビジネス専攻	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 必修(フ)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	農大の学生出資会社を教材に、会社経営における運営方法や経営計画や経理などを学ぶ。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 畜産学科 フードビジネス専攻 外部講師							実務経験のある教員 等による授業科目	
到達目標	・会社経営に関する基礎知識を身につける。 ・模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席点 (10点)			学習態度 (減点)	
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換 会やレポート提出により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3 段階で評価し、20点を上限と して以下の係数を乗じて減点す る。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	本校における会社経営 (学生出資会社について) 学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法、今年度の経営目標						1		
2	【1,2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成 におけるポイントについて①						1		
3	【1,2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成 におけるポイントについて②						1		
4	外部講師 「会社経営における商品開発」 利久庵						1		
5	【1,2年合同】11月農大祭の準備、運営方法について						1		
6	外部講師 「パッケージデザインについて」 ストロールデザイン						1		
7	外部講師 「会社経営における経営者の心得」 デーリーマーム						1		
8	【1,2年合同】 11月農大祭の準備、運営方法について						1		
9	【1,2年合同】 学生出資会社の新役員体制づくり①						1		
10	【1,2年合同】 学生出資会社の新役員体制づくり①						1		
11	【1,2年合同】 学生出資会社の定時株主総会について						1		
12	【1,2年合同、全学生対象】 令和5年度 定時株主総会						2		
13									
14	新活動体制による活動方針について						1		
15	まとめ レポート						1		
授業時間外に必 要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。								
再試験及び補習 対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	131	食品の機能性 I		学科名	全学科 フードビジネス専攻	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 履修(フ)	単位数	1	時間数	15	開講時期	1月～2月
科目の概要	食品の機能性に関する基礎知識を身につけ、食品の機能性と生体の関係性について学ぶ。								
講師名	南九州大学 健康栄養学部 食品開発科学科 教諭						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	食品の栄養性、嗜好性、機能性について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席点(10点)		学習態度(減点)		
	基準	講義終了後、評価試験を実施し、評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない授業態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1～3	食品とは					3			
	食品の成分と3つの機能性								
	機能性食品とは								
4～6	口内や消化管内で作用する機能 虫歯の原因になりにくい食品					3			
	おなかの調子を整える食品								
	コレステロールが高めの方のための食品								
7～9	カルシウムの吸収を助ける食品					3			
	血糖値が気になる方のための食品								
	血中中性脂肪が気になる方のための食品								
10～12	消化管内で吸収後の機能 血圧が高めの方のための食品					3			
	骨の健康が気になる方のための食品								
	血中中性脂肪や体脂肪が気になる方のための食品								
13～15	抗酸化作用をもつ食品					3			
	機能性食品の素材と開発								
	試験								
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	132	食品衛生／食品表示		学科名	全学科 フードビジネス 専攻	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択(フ以外) 履修(フ)	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～9月
科目の概要	食品衛生や食品表示に関する知識や技術を身につけ、農業大学校生産物・加工品を題材に、表示ルール「食品表示基準」を遵守した表示が出来るようになる。								
講師名	外部講師：一般社団法人食品表示検定協会 外部講師：食品加工技術アドバイザー 農業大学校 農学科フードビジネス専攻						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品衛生に関する基礎知識及び食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識を理解する。								
使用教材	食品衛生責任者ハンドブック、食品表示検定初級テキスト								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	以下の①～③により評価する。 ① 食品衛生責任者養成講座の修了有無 ② 食品表示検定の点数 ③ 評価テスト			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	授業の進め方						1		
2	食品衛生に関する基礎知識①						1		
3～4	食品衛生に関する基礎知識②						2		
5～6	食品衛生に関する基礎知識③						2		
7～8	食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識①						2		
9～10	食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識②						2		
11～12	食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識③						2		
13	食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識④演習問題						1		
14	食品表示法等に基づく食品表示に関する基礎知識⑤演習問題						1		
15	評価テスト						1		
授業時間外に必要な学修	・食品衛生責任者養成講座（eラーニング）の専攻特別実習等による視聴（7月中は視聴可能） ・食品表示検定初級（11月受験） 食品表示検定（オンデマンド）は、9月末～11月末（試験日まで）に視聴可能。								
再試験及び補習対象の実施基準									

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	133	農業概論		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・各品目の生理生態と栽培管理技術について学ぶ。 ・6次化及び食品加工について学ぶ。								
講師名	農業大学校農学科指導職員 総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・品目ごとの生理生態や一般的な栽培管理技術を習得する。 ・日本農業技術検定資格3級（既取得は2級）取得を目指す。								
使用教材	・作物栽培の基礎、野菜栽培の基礎、果樹栽培の基礎、草花栽培の基礎（農文協） ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	施設野菜栽培試験						3	農業大学校指導職員	
2									
3									
4	露地野菜栽培試験						2	農業大学校指導職員	
5									
6	花き栽培試験						2	農業大学校指導職員	
6									
7	果樹栽培試験						2	農業大学校指導職員	
8									
9	フードビジネス関連試験						2	農業大学校指導職員	
10									
11	普通作物栽培試験						2	農業大学校指導職員	
13									
14	茶栽培試験						2	茶業支場職員	
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	134	スマート農業基礎(農)		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・スマート農業の現状を認識する。 ・現地での実践的な取組を学ぶとともに、経営的な視点から技術の仕組みを学ぶ。								
講師名	宮崎大学講師、農業法人、民間企業、茶業支場職員、 農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・民間企業や農業法人との連携により、スマート農機を活用した栽培技術を習得する。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験及びレポートにて理解度を 評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数 とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	スマート農業の現状と今後の展開 ・ICT技術の進化と生活・産業面での普及 ・AI・ロボット技術の進化によるスマート農業の今後の展開 （レポート）						3	宮崎大学農学部 講師	
2									
3									
4	スマート農業の実践③産業用ドローンの現状、活用事例 ドローンによるリモートセンシング事例 （レポート）						2	農業大学校指導職員	
5									
6	スマート農業の実践②ロボット農業機械について ・茶収穫 ロボット摘採機の概要と実演 （レポート）						2	総合農業試験場 茶業支場 職員	
7									
8	スマート農業の実践④農業用施設の環境制御技術について ・施設園芸ハウスの複合環境制御法とその効果 （レポート）						2	民間企業	
9									
10	スマート農業の実践①農作業のスマート化 ・フィールドマン（栽培管理システム）・フィールドサーバーを 活用した農業経営管理技術 ・ロボットトラクター等大型農業機械の一貫経営技術 （レポート）						2	農業法人	
11									
12	スマート農業の実践⑤ロボット等高性能農業機械について ・ロボット等高性能農業機械の開発状況と活用事例、今後の展開 ・ロボット等高性能農業機械の実演、操作演習						3	機械メーカー	
13									
14									
15	試験						1	農業大学校 指導職員	
授業時間外に 必要な学修	特になし								
再試験及び補習 対象の実施 基準	原則実施しない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	135	土壌肥料基礎		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～11月
科目の概要	・農業生産の基本となる土壌・肥料、環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業について学ぶ								
講師名	民間企業（環境土壌クリニック（株）リクリア等） 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	土壌や肥料、農業気象の基礎知識を習得し、プロジェクト学習に資する。 環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業について習得する。 土壌医検定3級合格の6割の理解力を目指す。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	レポートにより理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	土壌の基礎・土壌医検定について						1	農業大学校職員	
2	微生物を活用した循環型農業① （レポート）						2	民間企業	
3									
4	微生物を活用した循環型農業②（土壌病害抑制） （レポート）						2	民間企業	
5									
6	土壌の基礎、土の組成、微生物のはたらき②						2	民間企業	
7									
8	土壌の基礎、土の組成、微生物のはたらき③						2	民間企業	
9									
10	作物と土、肥料、土の生成、土壌の酸性と中和、水と空気、 養分を保持する働き、土壌分析、施肥設計						2	民間企業	
11									
12	土壌医検定について②（試験対策） （レポート）						1	農業大学校職員	
13	土壌断面、診断、演習 （演習レポート）						3	民間企業	
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	136	農学専攻実習Ⅰ		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学修に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員 総合農業試験場茶業支場職員（茶専攻） 外部講師（花専攻）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定し、プロジェクト学修を実践する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		学習態度（減点）	
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。		プロジェクトに取り組んでいる品目の温度管理、かん水管理、施肥管理など栽培管理を理解し実践しているかを評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
作物、野菜、果樹、茶専攻									
通年	各専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学修品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学修品目の調査						270	農業大学校職員 茶業試験場職員（茶専攻）	
花専攻									
通年	花専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学修品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学修品目の調査						270	農業大学校職員	
	フラワー装飾技術演習							外部講師	
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	137	農学専攻特別実習Ⅰ		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	7月～3月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術と出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員 茶業支場職員（茶専攻）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、実践的な管理技術及び出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度（減点）	
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。		プロジェクトに取り組んでいる品目の温度管理、かん水管理、施肥管理など栽培管理を理解し実践しているかを評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
作物、野菜、果樹、茶専攻									
通年	各専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得					120	農業大学校指導職員 茶業支場職員（茶）		
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	138	有機農業概論		学科名	農学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・有機農業に取り組むための考え方や基礎的な知識について学ぶ。 ・有機農業の実践者から栽培管理技術のポイントや販売戦略について学ぶ。								
講師名	・民間企業（一社 フードトラストプロジェクト、みやざき有機農業協会、流通販売業者等）、有機農業実践者 ・県・市町村有機農業担当課職員 ・総合農業試験場職員、農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・有機農業に取り組むための知識を習得させる。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験及びレポートにて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	有機農業とは ・国内外における有機農業の歴史と流れ、メカニズム（レポート）					2	民間企業		
2									
3	宮崎県における有機農業の推進について（レポート）					1	宮崎県農政水産部 担当課		
4	有機農業における管理技術① 環境づくり					1	農業大学校指導職員		
5	有機農業における管理技術② 病虫害防除					1	総合農業試験場		
6	地域における有機農業の取組について（レポート）					1	市町村有機農業担当課		
7	有機JASの認証取得について					1	有機JAS農業認証団体		
8	試験					1	農業大学校指導職員		
9	有機農業実践論（有機JAS認証取得者） ・土づくり、栽培のポイント、販売戦略（レポート）					2	有機農業実践者 （高鍋町・木城町）		
10									
11	有機栽培実践論（有機栽培実践者、有機農産物取扱流通販売業者） ・有機農業における土づくり、栽培のポイント、省力化、販売戦略（レポート）					5	有機栽培実践者 民間企業 （日向市）		
12									
13									
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	139	G A P演習Ⅰ（農）		学科名	農学科	学年	1	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・ G A Pの内容を理解し、G A P基準書、運営マニュアルの自己点検、実践手法を学ぶ。								
講師名	学識経験者 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	・ G A P基準書、運営マニュアルの自己点検手法を習得させる。 ・ G A P維持・更新審査の内容を理解させる。								
使用教材	講師準備資料、G A P基準書 等								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	専攻毎のG A P基準書、運営マニュアルの自己点検手法、審査内容の理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	G A P基準書に基づく自己点検①（各専攻毎）						3	農業大学校指導職員	
2									
3									
4	G A P基準書に関する講義及び自己点検①の外部評価						3	学識経験者 農業大学校指導職員	
5									
6									
7	G A P基準書に基づく自己点検②（各専攻毎）						3	農業大学校指導職員	
8									
9									
10	G A P自己点検②の外部評価						3	宮崎大学農学部 講師 農業大学校指導職員	
11									
12									
13	G A P審査受審（A S I A G A P、ひなたG A P）						3	農業大学校指導職員	
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	140	作物の栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修（作物専攻）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・ 水稻、麦類、豆類、露地野菜を対象に、これらを取り巻く情勢、特性及び栽培技術の理論等を学修する。 ・ 特に水稻では、栽培管理の前半に重要となる育苗技術や水管理を中心に学修する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ 作物及び野菜の分類と各品目の特性について理解し、プロジェクト学修への意欲を高める。								
使用教材	作物栽培の基礎 作物学の基礎Ⅰ 野菜園芸学の基礎 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎県の作物生産の現状						1	農業大学校指導職員	
2	水稻の栽培の基本（施肥、生育診断ほか）						1		
3	水稻栽培における水管理（生育時期ごとの水管理）						1		
4	水稻の育苗（育苗前半の管理）						1		
5	水稻の育苗（育苗後半の管理）						1		
6	豆類栽培の基礎（大豆・落花生等の特性）						1		
7	麦類の栽培と現状（麦類の種類、国内の生産状況と課題ほか）						1		
8	（畑作物）栽植密度						1		
9	（畑作物）種苗生産・供給						1		
10	（畑作物）作型（植付時期・収穫時期・在ほ日数）						1		
11	（畑作物）作付体系（品目の組み合わせ）						1		
12	（畑作物）畑の土壌管理（畑土壌の化学性・物理性）						1		
13	（畑作物）作付計画・作業計画						1		
14	（畑作物）畑作物の経営管理						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	講義内容を深めるための学修及び講義内容以外の関連事項の学修								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	141	施設野菜の栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修(野菜専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・野菜の分類、野菜の特性と栽培、利用について専門的に学修する。 ・野菜の各品目の生理生態、特性、栽培管理について専門的に学修する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・県内で栽培されている施設果菜類の栽培に関する知識を習得し、専攻実習で実践できるようにする。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	すいかの生理生態と栽培管理						1	農業大学校指導職員	
2	すいかの生理生態と栽培管理						1		
3	トマトの生理生態と栽培管理						1		
4	トマトの生理生態と栽培管理						1		
5	トマトの生理生態と栽培管理						1		
6	きゅうりの生理生態と栽培管理						1		
7	きゅうりの生理生態と栽培管理						1		
8	きゅうりの生理生態と栽培管理						1		
9	ピーマンの生理生態と栽培管理						1		
10	ピーマンの生理生態と栽培管理						1		
11	いちごの生理生態と栽培管理						1		
12	いちごの生理生態と栽培管理						1		
13	メロンの生理生態と栽培管理						1		
14	メロンの生理生態と栽培管理						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	142	果樹の栽培管理		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修（果樹専攻）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・果樹の分類、果樹の特性と栽培・利用について専門的に学修する。 ・果樹の各品目の特性・栽培管理について専門的に学修する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・果樹の分類と各品目の特性について理解し、プロジェクト学習への意欲を高める。								
使用教材	果樹栽培の基礎 講師準備資料（果樹栽培指針）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎県の果樹生産の現状						2	農業大学校指導職員	
2	果樹の成長・環境など								
3	果樹の病害虫について						2		
4	マンゴーの栽培管理								
5	マンゴーの栽培管理						2		
6	ライチの栽培管理								
7	きんかんの栽培管理						2		
8	きんかんの栽培管理								
9	みかんの栽培管理						2		
10	みかんの栽培管理								
11	日向夏の栽培管理						2		
12	日向夏の栽培管理								
13	ぶどうの栽培管理						2		
14	ぶどうの栽培管理								
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	特になし。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	143	花きの栽培管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修（花専攻）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・花きの分類、花きの特性と栽培・利用について専門的に学修する。 ・花きの各品目の開花特性・栽培管理について専門的に学修する。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・花きの分類と開花調節、鮮度保持技術について理解し、プロジェクト学修への意欲を高める。								
使用教材	草花栽培の基礎 講師準備資料（花き栽培指針）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎県の花き生産の現状						1		
2	花きの成長・開花と環境（開花調節など）						1		
3	花きの品質と品質保持（鮮度保持技術）						1		
4	キクの栽培管理						1		
5	スイートピーの栽培管理						1		
6	トルコギキョウの栽培管理						1		
7	ダリアの栽培管理						1		
8	ユリ類の栽培管理						1		
9	デルフィニウムの栽培管理						1		
10	バラの栽培管理						1		
11	ラナンキュラスの栽培管理						1		
12	ホオズキの栽培管理						1		
13	鉢苗物の栽培管理						1		
14	洋ラン類の栽培管理						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	特になし。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験はしない								

令和6年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	144	茶の栽培管理			学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修（茶専攻）	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月	
科目の概要	・茶樹の生理生態と基本的な栽培技術について学ぶ。									
講師名	総合農業試験場茶業支場職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・茶の栽培管理の体験や生育・収量調査及び病虫害の発生調査等などを通して、茶樹の生理生態と基本的な栽培技術を理解させる。									
使用教材	図解 茶生産の最新技術 製造編 講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	茶の生育と茶園管理スケジュール						1	茶業支場支場長		
2	茶の育苗・定植						1	茶業支場育種科		
3	茶の幼木管理						1	茶業支場育種科		
4	茶の摘採（被覆）						1	茶業支場栽培加工科		
5	茶の収量・品質						1	茶業支場栽培加工科		
6	茶の剪枝方法						1	茶業支場栽培加工科		
7	茶の病虫害①						1	茶業支場栽培加工科		
8	茶の病虫害②						1	茶業支場栽培加工科		
9	茶の病虫害③						1	茶業支場栽培加工科		
10	茶の病虫害防除①						1	茶業支場栽培加工科		
11	茶の病虫害防除②						1	茶業支場栽培加工科		
12	茶の施肥方法						1	茶業支場栽培加工科		
13	茶の有機栽培他						1	茶業支場栽培加工科		
14	茶の防霜対策						1	茶業支場栽培加工科		
15	試験						1	茶業支場支場長		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	145	先進農業事例研究		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	先進的な農業者、企業的農業者の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。								
講師名	県内先進的農業者、農業法人等							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			学習態度（減点）	
	基準	・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			研修中の態度により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	校外学習						3	農業大学校指導職員	
2	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組①								
3									
4	校外学習						3	農業大学校指導職員	
5	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組②								
6									
7	校外学習						3	農業大学校指導職員	
8	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組③								
9									
10	校外学習 県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組④						6	農業大学校指導職員	
11									
12									
13									
14									
15									
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	146	茶の加工			学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	演習		区分	必修 (茶専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	・茶の基本的な加工技術と審査法について学ぶ。									
講師名	総合農業試験場茶業支場職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・茶の基本的な加工技術と審査法の知識を習得させる。									
使用教材	図解 茶生産の最新技術 製造編 講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	茶の分類、生葉の取り扱いと保管						1	茶業支場栽培加工科		
2	煎茶の製造法①						1	茶業支場栽培加工科		
3	煎茶の製造法②						1	茶業支場栽培加工科		
4	製茶工場設備と衛生管理						1	茶業支場栽培加工科		
5	玉露、てん茶の製造法						1	茶業支場栽培加工科		
6	蒸し製玉緑茶の製造法						1	茶業支場栽培加工科		
7	釜炒り茶の製造法①						1	茶業支場栽培加工科		
8	釜炒り茶の製造法①						1	茶業支場栽培加工科		
9	半発酵茶の製造法						1	茶業支場栽培加工科		
10	茶の仕上げ加工法						1	茶業支場栽培加工科		
11	茶の貯蔵と包装						1	茶業支場栽培加工科		
12	煎茶の審査法						1	茶業支場栽培加工科		
13	釜炒り茶の審査法						1	茶業支場栽培加工科		
14	半発酵茶、紅茶の審査法						1	茶業支場栽培加工科		
15	試験						1	茶業支場栽培加工科		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕											
科目名	147	農業気象学		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～3月		
科目の概要	・農業気象の基礎知識を学ぶ。 ・自然環境に対応する園芸・被服資材、ハウスの基本仕様等、施設内環境の制御技術について学ぶ。 ・自然環境の中で、鳥獣被害の現状、被害軽減対策を学ぶ。										
講師名	総合農業試験場 専門技術センター担当、企画情報室職員 鳥獣被害対策支援センター(専門技術センター担当) J A 宮崎経済連 建築設計センター 担当者 児湯農林振興局 (土地利用営農担当) 職員						実務経験のある教員等による授業科目				
到達目標	農業気象の基礎知識を理解し、園芸施設の環境設定、鳥獣被害対策を理解する事で、プロジェクト学修に反映させる。										
使用教材	・図解でよくわかる農業のきほん(誠文堂新光社)・講師準備資料										
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)			
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。			
授業の計画(授業の回数やスケジュール)											
回	内 容						時間	備 考			
1	農業気象の基礎知識と地球温暖化について						2	総合農業試験場 企画情報室			
2	宮崎の気候特性について										
3	天気図と雲の見方について						2				
4	宮崎の気候特性について										
5	気象災害の事前・事後対策について						1	農業大学校指導職員			
6	◆評価試験①						1				
7	鳥獣害被害対策について						2	鳥獣被害対策支援センター			
8	◆評価試験②										
9	施設園芸の現状について						2	総合農業試験場 専門技術センター			
10	被覆資材と光環境制御について										
11	複合環境制御と省エネルギー対策						2				
12	農業用廃プラスチックのリサイクルについて										
13	マルチの特徴と被覆資材について						1	農業大学校指導職員			
14	外張り資材について						1				
15	内張資材について						1				
16	◆評価試験③						1				
17	県標準型ハウスの基本仕様と構造						2	J A 宮崎経済連 建築設計センター			
18											
19											
20											
21	農業大学校のハウスの仕様について						1	農業大学校指導職員			
22	◆評価試験④						1				
23	畑地かんがいにおけるかん水資材の活用について						1	児湯農林振興局			
24											
25	観測機器の取扱と注意点						1	農業大学校指導職員			
26	ハウス内モニタリングの実際						1				
27	環境制御と日長調節について(花き)						1				
28	環境制御について(果樹)						1				
29	環境制御について(施設野菜)						1				
30	露地栽培における資材の活用と地温、水分の変化について						1				
授業時間外に必要な学修	特になし										
再試験及び補習対象の実施基準	県立農業大学校管理運営要領、第2章学習に関する規則、第2節成績評価の第30条～39条を基に評価する。出席70%以上を要する。また、必要に応じて承認を得た者は追試または再試を1回限り実施する。										

令和6年度 授業計画書【シラバス】										
科目名	148	病虫害基礎		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～3月	
科目の概要	・病虫害の発生や生態の基本知識を理解した上で、自然環境に応じた防除方法を学び、農薬の取扱方法や安全対策について理解する。									
講師名	総合農業試験場 専門技術センター担当、生物環境部担当 農業大学校 指導職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	植物の病気発生メカニズム、害虫の生態を学ぶとともに、無農薬による防除方法、農薬の種類・特性・使用法を理解させる。									
使用教材	・図解でよくわかる病虫害のきほん（誠文堂新光社） ・図解でよくわかる農薬のきほん（誠文堂新光社） ・農薬概説2022（日本植物防疫協会） ・講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として減ずる。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	作物保護と農薬、植物防疫、関係法令、農薬の一般知識						5/23(月)	農大指導職員		
2							10:00～12:10			
3	農薬のリスクと安全評価、農薬の安全・適正使用						6/6			
4	◆評価試験①						6/12			
5	害虫の種類とその対策						12/6(月)			
6	害虫の発生予察						1/27(月)			
7	総合的害虫管理について						1/29(水)			
8	病気の種類とその対策						2/3(月)			
9	病気の発生予察						2/4(火)			
10	総合的防除について						2/7(金)			
11	◆評価試験②						2/10(月)			
12	主な植物の病気とその被害例、防除方法						11/25(月)	総合農業試験場 専門技術センター (病虫害担当)		
13	主な殺菌剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意①						10:00-12:10			
14	主な植物の病気とその被害例、防除方法						11/27(水)			
15	主な殺菌剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意②						10:00-12:1			
16	◆評価試験③						12/12(木)	農大指導職員		
17	主な害虫の種類と生態、その被害例と防除方法						12/18(水)	総合農業試験場 生物環境部 副部長		
18	主な殺虫剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意①						10:00-12:10			
19	主な害虫の種類と生態、その被害例と防除方法						1/15(水)			
20	主な殺虫剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意②						10:00-12:10			
21	主な害虫の種類と生態、その被害例と防除方法						1/20(月)			
22	主な殺虫剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意③						10:00-12:10	農業大学校指導職員		
23	◆評価試験④						1/21(火)			
24	病気と害虫の被害例とその対策（施設野菜）						2/12(水)			
25	病気と害虫の被害例とその対策（露地野菜）						2/17(金)			
26	病気と害虫の被害例とその対策（水稻）						2/19(月)			
27	病気と害虫の被害例とその対策（畑作物）						2/21(水)			
28	病気と害虫の被害例とその対策（果樹）						2/26(金)			
28	病気と害虫の被害例とその対策（花き）						3/3(月)			
30	病気と害虫の被害例とその対策（特用作物）						3/5(水)			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	県立農業大学校管理運営要領、第2章学習に関する規則、第2節成績評価の第30条～39条を基に評価する。この科目は「必修」のため出席70%以上を要する。また、必要に応じて承認された場合は追試または再試を実施する。									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	149	畜産概論		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	・畜産物生産の意義と役割、畜産の経営、畜産物の生産から流通、利用に至るまでの畜産全般について基礎的なことを広く学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産全般について基礎的な知識を習得する。 ・農業技術検定3級程度の知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料 等								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容						時間	備 考	
1	家畜と人間生活（畜産の意味、畜産の歩み） ●〈畜産概論〉我が国畜産の沿革及び特徴						1	担当講師： 農業大学校職員	
2	家畜の主要品種の改良と特徴 ●〈畜産概論〉家畜の主要品種の特徴						1		
3	乳用牛、肉用牛、豚の一生と生産、畜産経営形態の種類と特徴 ●〈畜産概論〉主要畜産物（乳・肉等）の生産に関与する要因						1		
4	家畜飼養管理、畜産の環境と防疫、動物福祉（アニマルウェルフェア）、牛トレーサビリティ制度、生産工程管理（HACCP、GAP等） ●〈畜産概論〉家畜飼養管理とアニマルウェルフェア						1		
5	試験① ●〈畜産概論〉						1		
6	畜産物の利用（乳と乳製品）						1		
7	畜産物の利用（肉と肉製品）						1		
8	畜産物の利用（卵と卵の利用、機能的食品、皮・毛・羽毛、医療用器材）						1		
9	肉用牛繁殖経営の実際（飼養管理、流通）						1		
10	肉用牛肥育経営の実際（飼養管理、流通）						1		
11	酪農経営の実際（飼養管理、流通）						1		
12	養豚経営の実際（飼養管理、流通）						1		
13	養鶏経営の実際（飼養管理、流通）						1		
14	その他の家畜（ヤギ、ヒツジ、ウマ）の実際						1		
15	試験②						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	150	スマート農業基礎(畜)		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5 月～ 7 月
科目の概要	スマート農業を導入することで、農業が直面している課題の何を変えることができ、どのような技術を使うことでそれを変えることができるのかを学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	メーカーや農業法人との連携により、スマート農機を活用したプロジェクトとして取り組み、高度なスマート農業技術を習得させる。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	スマート農業の現状と今後の展開					1	担当講師：外部講師		
2	〃					1			
3	〃 試験①					1			
4	ICTを活用した農業経営について①					1			
5	〃 試験②					1			
6	ICTを活用した農業経営について②					1			
7	〃 試験③					1			
8	ICTを活用した農業経営について③					1			
9	〃 試験④					1			
10	ICTを活用した農業経営について④					1			
11	〃 試験⑤					1			
12	ICTを活用した農業経営について⑤					1			
13	〃 試験⑥					1			
14	ICTを活用した農業経営について⑥					1			
15	〃 試験⑦					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	151	畜産専攻実習 I		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理、加工等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員 ・川南支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術、加工技術を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上 1.0 *90%未満は評価対象外		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～20	家畜の飼養管理等						20		
21～50	家畜の飼養管理等						30		
51～70	家畜の飼養管理等						20		
71～100	家畜の飼養管理等						30		
101～130	家畜の飼養管理等						30		
131～160	家畜の飼養管理等						30		
161～220	家畜の飼養管理等						60		
221～270	家畜の飼養管理等						50		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	152	畜産専攻特別実習Ⅰ		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	7月～3月
科目の概要	・家畜の飼養管理や搾乳、繁殖・肥育管理などの実習を行う。								
講師名	・農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・90%以上 1.0 *90%未満は評価対象外		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1～15	家畜の飼養管理等						15	7月	
16～38	家畜の飼養管理等						23	8月	
39～53	家畜の飼養管理等						15	9月	
54～68	家畜の飼養管理等						15	10月	
69～83	家畜の飼養管理等						15	11月	
84～98	家畜の飼養管理等						15	12月	
99～113	家畜の飼養管理等						15	1月	
114～128	家畜の飼養管理等						15	2月	
129～150	家畜の飼養管理等						22	3月	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	時間が不足する場合、休業期間中に専攻特別実習を行う。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	153	家畜の栄養と飼料		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～2月
科目の概要	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法について学ぶ。								
講師名	・外部講師 ・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容						時間	備 考	
1～8	牛の栄養 ・栄養素（2時間） ・消化器の構造と機能（2時間） ・飼料の種類と特性（2時間） ・飼料の配合と給与（2時間） ●〈家畜の栄養〉家畜における消化及び吸収の仕組み 飼料の種類及び特性 飼料の配合及び給与						8	農業大学校職員	
9～11	豚の栄養 ・消化器の構造と機能（1時間） ・飼料の種類と特性（2時間） ●〈家畜の栄養〉家畜における消化及び吸収の仕組み 飼料の種類及び特性						3		
12～14	家畜の栄養状態の把握、家畜の養分要求量の把握、飼料設計診断 ●〈家畜の栄養〉飼料の配合及び給与						3		
15	試験① ●〈家畜の栄養〉						1		
16～27	自給飼料生産 ・自給飼料作物生産の意義（飼料作物の生産費） ・飼料作物の栽培と品種、収穫に係わる機械化体系 ・飼料作物栽培・収穫の手引き ・飼料作物の調整（サイレージ・乾草） ・放牧草地の利用と生産 ・飼料作物の生産費 ・飼料作物の土壌 ・良質堆肥の生産方法 ・雑草・病害虫防除 試験②						12		
28	現場での実習（土壌サンプル・堆肥）						1	外部講師	
29	飼料作物関連新技術、エコフィードの活用						1		
30	試験③						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	154	家畜の飼養管理		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～7月
科目の概要	・家畜の飼養管理体系と環境に応じた飼養管理技術を学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の飼養管理体系や環境に応じた飼養管理技術の知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト、日本標準飼料分析表、日本飼養標準（乳牛、肉用牛、豚）、講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	牛に対する環境の影響 ●〈家畜の飼養管理〉家畜に対する環境の影響					1	担当講師： 農業大学校職員		
2	牛の管理施設の種類と特長 ●〈家畜の飼養管理〉畜舎等畜産施設の種類及び特性					1			
3	一般的な飼養管理方法(肉用牛繁殖) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
4	一般的な飼養管理方法(肉用牛繁殖) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
5	一般的な飼養管理方法(肉用牛肥育) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
6	一般的な飼養管理方法(肉用牛肥育) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
7	試験① ●〈家畜の飼養管理〉					1			
8	一般的な飼養管理方法(酪農) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
9	一般的な飼養管理方法(酪農) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
10	一般的な飼養管理方法(酪農) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
11	試験② ●〈家畜の飼養管理〉					1			
12	豚の特性と環境などの影響 ●〈家畜の飼養管理〉家畜に対する環境の影響					1			
13	豚の管理施設の種類と特長 ●〈家畜の飼養管理〉畜舎等畜産施設の種類及び特性					1			
14	一般的な飼養管理方法（豚） ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1			
15	試験③ ●〈家畜の飼養管理〉					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]										
科目名	155	家畜の育種と繁殖Ⅰ			学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～2月	
科目の概要	家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容とともに、繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみを学ぶ。									
講師名	・外部講師 ・農業大学校職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。									
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容						時間	備 考		
1～7	家畜の育種 試験① ・家畜の遺伝の原理 ・家畜の主要形質の遺伝 ・家畜の選抜、交配および能力検定（牛・豚） ・家畜登録制度（牛・豚） ●〈家畜の育種〉家畜の遺伝の原理 家畜の主要形質の遺伝 家畜の選抜方法及びその特徴 家畜の交配方法及びその特徴 能力検定 家畜の登録制度						7	担当講師：外部講師		
8	妊娠と分娩 ・受精・発生 ●〈種付けの理論（妊娠と分娩）〉 雌生殖器官内における精子及び卵子の移動及びその機能の変化						1	担当講師： 農業大学校職員		
9～12	妊娠と分娩 試験② ・胎子・胎膜の発育と着床 ・妊娠の経過と妊娠診断 ・分娩と産褥、繁殖障害 ●〈繁殖生理（神経・内分泌及び雌繁殖整理）〉 胚、胎児の発育及び妊娠による母胎の変化 分娩の経過及び分娩後の繁殖機能 繁殖障害の概念及び原因						4	担当講師： 農業大学校職員		
13～14	人工授精技術Ⅰ（家畜人工授精の意義） 試験③ ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 人工授精技術の発展の歴史 人工授精技術の意義及び得失						2	担当講師： 農業大学校職員		
15～19	人工授精技術Ⅱ 試験④ ・精液の採取と検査 ・X精子・Y精子の選別分取処理 ・精液の凍結保存 ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 精液の採取 精液及び精子の検査 保存液の特性及び精液の希釈 精液の液状保存及び凍結保存						5	担当講師：外部講師		
20～30	人工授精技術Ⅲ 試験⑤ ・凍結精液の保管と取扱い ・精液の注入 ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 精液の注入 人工授精用器具等の種類及び特性 消毒の原理及び方法						11	担当講師： 農業大学校職員		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	156	人工授精演習		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	・家畜人工授精業務に必要な知識と技術を習得するため、家畜の審査方法、生殖器の構造とともに、人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法等について学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員 ・外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・生殖器 ・講師作成資料 等								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
1	生殖器解剖 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1	講師担当： 農業大学校指導職員		
2	生殖器解剖 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1			
3	生殖器解剖 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1			
4	生殖器解剖 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1			
5	評価① ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1			
6	人工授精 ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法					1			
7	人工授精 ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法					1			
8	評価② ●〈家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存〉 人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法					1			
9	家畜の体尺測定（肉用牛・豚） ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定					1	担当講師： （肉用牛）和牛登録協会宮崎県支部 （豚）畜試川南支場		
10	家畜の体尺測定（肉用牛・豚） ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定					1			
11	家畜の体型審査（肉用牛・豚） ●〈家畜の審査〉体型審査					1			
12	評価③ ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定、体型審査					1			
13	家畜の体尺測定（乳用牛・豚） ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定					1	担当講師： （乳用牛）経済連 （豚）畜試川南支場		
14	家畜の体型審査（乳用牛・豚） ●〈家畜の審査〉体型審査					1			
15	評価④ ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定、体型審査					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	157	G A P 演習 I (畜)		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月
科目の概要	G A P の内容を理解し、G A P 基準書、運営マニュアルの自己点検、実践手法を学ぶ。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ G A P 基準書、運営マニュアルの自己点検手法を習得させる。 ・ G A P 維持・更新審査の内容を理解させる。								
使用教材	J G A P 総合規則、農場用管理点と適合基準、アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針、G A P 手順書 等								
成績評価	方法	知識（9 0 点）			出席率（1 0 点）			受講態度（減点）	
	基準	専攻毎のG A P 基準書、運営マニュアルの自己点検手法、審査内容の理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 90%以上 1. 0 * 90%未満は評価対象外			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	G A P 基準書の理解（各専攻）①					1	担当講師：農業大学校職員		
2	G A P 基準書の理解（各専攻）②					1			
3	G A P 基準書の理解（各専攻）③					1			
4	作業標準書に基づく作業手順の確認（各専攻）①					1			
5	作業標準書に基づく作業手順の確認（各専攻）②					1			
6	作業標準書に基づく作業手順の確認（各専攻）③					1			
7	作業標準書に基づく作業手順の確認（各専攻）④					1			
8	作業標準書に基づく作業手順の確認（各専攻）⑤					1			
9	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻）①					1			
10	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻）②					1			
11	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻）③					1			
12	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し（各専攻）④					1			
13	商品トレーステスト、事故発生時の机上演習（各専攻）					1			
14	作業機器の点検及び記帳（各専攻）①					1			
15	作業機器の点検及び記帳（各専攻）②					1			
授業時間外に必要な学修	専攻実習 I 及び専攻特別実習 I における農場での実践演習								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	158	削蹄演習 I		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	2～3月
科目の概要	家畜の削蹄の必要性和ともに削蹄技術を学ぶ。								
講師名	・外部講師 ・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・削蹄の技術を習得する。 ・2級認定削蹄資格を取得する。								
使用教材	・牛削蹄入門 ・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度(減点)	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。		実習時の習熟度について、講師の採点により評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	削蹄の基礎について					1	担当講師：外部講師		
2	削蹄の基礎について					1			
3	削蹄実習					1			
4	削蹄実習					1			
5	削蹄実習					1			
6	削蹄実習					1			
7	削蹄実習					1			
8	削蹄実習					1			
9	削蹄実習					1			
10～14	削蹄実習及び削蹄実施牛の施術後管理					5	担当講師： 農業大学校職員		
15	試験					1	担当講師： 農業大学校職員		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して補習は実施しない。								

令和6年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	159	専攻実習Ⅰ（フ）		学科名	フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	7	時間数	210	開講時期	7月～3月
科目の概要	農産物、畜産物の加工に関する基礎知識と技術を学ぶ。また、栽培、加工、販売の6次産業化に取り組み、実践力を身につける。課題設定によるプロジェクト活動に取り組み問題解決能力を高める。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻職員 畜産学科 フードビジネス専攻職員、外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・農大の農畜産物の栽培・飼養管理から、加工、販売の一連の学習を通して、課題解決能力の向上を図る。 ・農産物、畜産物の加工技術を習得する。 ・食品に関する基礎知識を身につけ、加工から販売までの一連の流れを理解する。								
使用教材	農場での学習資料 食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度（減点）	
	基準	食品加工に関する基礎知識の修得状況について、プロジェクト活動を通して評価する。 資格取得のための知識習得の状況や理解度を評価する。		専攻で製造・販売する商品の品質管理や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減点する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～10	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識					10			
11～30	プロジェクト学習に関するテーマ設定、計画、実践					20			
31～60	農大の農畜産物の一次処理・冷凍保存（6次産業化に向けた取り組み）					30			
61～100	農大産の作物を使った焼き菓子（マドレーヌ、パウンドケーキ等） 製造、ジャム類（イチゴ、マーマレード等）の製造					40			
101～130	原材料の生産・調達に係る実践農場での栽培管理と流通に関する学習					30			
131～170	農大産の牛乳を使ったチーズ、アイスクリームの製造					40			
171～210	農大産の畜産物を使ったハム、ベーコン、ソーセージ製造					40			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	再試験、補講は行わない。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	160	専攻特別実習Ⅰ（フ）		学科名	フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	7月～3月
科目の概要	フードビジネス専攻における必要な資格取得に関する学習や学生出資会社での販売実習、専攻での特別講義等を行うことにより、実践力を身につける。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 畜産学科 フードビジネス専攻						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各資格取得のための講習・各種イベント等への参加を行い、各自の技術向上を図る。								
使用教材	資格取得のためのテキスト								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度（減点）	
	基準	資格取得のための知識習得の状況や理解度を評価する。 各種イベント等で習得される知識などを評価する。		専攻で製造・販売する商品の品質管理や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減点する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
月	内 容					時間	備 考		
7月	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習、校外研修プロジェクト学習等					15			
8月						15			
9月						15			
10月						20			
11月						20			
12月						20			
1月						20			
2月						15			
3月						10			
授業時間外に必要な学修	各自が1年次に取得する資格等を決定し、各自で準備する。資格取得のための学修を実施する。								
再試験及び補習対象の実施基準	学校の休業日等に実習を行う。								

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	161	食品製造(理論)		学科名	フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月
科目の概要	農産物、畜産物の加工理論について演習を交えながら学ぶ。また、食品衛生、食品化学に関する基礎知識を身につける。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農産物、畜産物の加工理論や食品衛生、食品化学に関する基礎知識を習得する。								
使用教材	プリント、スライド								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）		学習態度（減点）		
	基準	講義及び演習の終了後、評価試験を実施する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	加工室、加工器具類の取り扱い説明, 食品衛生に関する基礎知識 HACCPの考えを導入した本校の加工室の衛生管理について 食品化学に関する実験器具類の説明及び演習						3		
2									
3									
4	食中毒、食品添加物について						2		
5									
6	野菜、果実の栄養、加工特性について 野菜、果実を使った加工品に関する基礎知識（トマトケチャップ、ジャム類等）						3		
7									
8									
9	穀類の栄養、加工特性について 穀類を使った加工品に関する基礎知識（パン類、焼き菓子等）						3		
10									
11									
12	畜産物の栄養、加工特性について 畜産物を使った加工品に関する基礎知識（くん製品） 乳の栄養、加工特性について 乳を使った加工品に関する基礎知識（アイスクリーム）						3		
13									
14									
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	予習、復習及び試験に向けた学習								
再試験及び補習対象の実施基準	再試験、補講は行わない。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	162	食品化学Ⅰ		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	12月～2月
科目の概要	食品実験に関する基礎知識を身につけ、食品の一般分析方法について学ぶ。								
講師名	南九州大学 健康栄養学部 食品開発科学科 教諭							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・実験器具の使い方に関する基礎知識を身につける。 ・食品分析に関する実験内容を理解し、レポートにまとめることができる。								
使用教材	講師準備資料、実験器具、試薬類								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義終了後にレポートを提出し、内容により知識の習得状況を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	実験器具の使い方、レポートの書き方の説明						3		
2	食品の一般分析①－1 水分の定量								
3	食品の一般分析①－2 灰分の定量								
4	食品の一般分析② リンの定量						3		
5									
6									
7	食品の一般分析③ タンパク質の定量（ケルダール法①）						3		
8									
9									
10	食品の一般分析④ タンパク質の定量（ケルダール法②）						3		
11									
12									
13	食品の一般分析⑤ 脂質の定量（ソックスレー法）						3		
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和6年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	163	食品製造実習Ⅰ		学科名	フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	7月～2月
科目の概要	農産物、畜産物の製造実習を通して、商品開発に関わる知識や技術を習得する。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	農産物、畜産物の加工を行い、商品開発の知識及び製造技術を習得する。								
使用教材	講師が準備する資料、食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		学習態度（減点）	
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して、製造に関する知識の習得状況を判断し評価する。		農産物、畜産物を使った商品開発を通して、製造技術の習得状況を判断し評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として減点する。	
回	内 容						時間	備 考	
1～2	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識(加工室の冷蔵庫温度管理、加工室の細菌検査等)						2		
3～8	農大産の作物を使った製菓・製パンの製造実習						6	農大小麦、米粉使用	
9～14	農大産の果樹、野菜を使った農産加工品の製造実習						6	ジャム類、ケチャップ パウダー類	
15～22	農大産、県内産の畜産物を使った肉加工製品の製造実習						8	ハム、ベーコン他	
23～30	農大産生乳を使った乳加工品の製造実習						8	チーズ、ヨーグルト、 プリン等	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和6年度 授業計画書[シラバス]									
科目名	164	フードビジネスⅠ		学科名	フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～12月
科目の概要	宮崎県のフードビジネス振興の取組を学ぶ。 フードビジネスに携わる人材として求められる知識を幅広く習得する。みやざきLFPの取組事例の調査学習を通して、地域の農畜産物を核とした異業種との連携手法等を理解する。								
講師名	外部講師 農学科 作物専攻、フードビジネス専攻職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品を介した事業を継続するための基礎を学ぶ。								
使用教材	講師が配布する資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席点(10点)		学習態度(減点)		
	基準	14時間の講義終了後、100点満点で評価試験を実施し、得点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない授業態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎県におけるフードビジネス振興の取組について ・フードビジネス振興構想、取組成果、施策の方向性						1		
2	事業資金の調達手段について(クラウドファンディング)						1		
3	原料調達の手法について						1		
4～9	みやざきLFP取組事例について みやざきフードビジネス相談ステーション研修						5		
9～10	原料調達から加工・製造、販売まで一連の行程を知る ・商品規格書について、演習						2		
11	商品の原価や売するためのコスト、儲けを考える						1		
12	専攻内の年間の原料調達、加工・製造、販売計画を整理						1		
13～14	卸売・商社を活用した販売方法を知る(BtoB) ・食品製造企業から見る卸売・商社の役割 ・模擬商談(専攻の商品を卸売へPRする場合を想定した演習)						2		
15	テスト						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準									

令和6年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	165	微生物活用 I		学科名	フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義・実験	区分	履修	単位数	1単位	時間数	15時間	開講時期	9月～11月
科目の概要	植物のバイオテクノロジーの実験を通し、雑菌・殺菌・滅菌の重要性やメカニズムの基礎・基本を習得し、分析機器操作や微生物を活用した食品加工の基礎・歴史を学ぶ。								
講師名	農学科 バイオテクノロジー指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	○微生物を使った食品・醗酵食品の歴史、種類を理解する。 ○実験を通し、施設設備の実際、培地の調整・作成、実験器具の扱い、無菌操作の基本を身につける。								
使用教材	講師準備資料・植物材料・実験施設設備・実験器具・実験機器・試薬他								
成績評価	方法	知識(90点)			出席点(10点)			学習態度(減点)	
	基準	14時間の講義・実験終了後、100点満点で評価試験を実施し、得点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A:問題のない授業態度 0 B:注意を受けたが改善 0.5 C:改善なし 1.0	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1～3	実験器具・実験機器・設備類の操作方法 手指の洗浄						1		
	培地の作成 (MS培地・H培地・MT培地他)						2		
4～6	増殖培養 無菌操作の基本 カンショとオーキッド、観葉植物の継代培養						3		
7～9	実体顕微鏡・生物顕微鏡の使い方						1		
	植物の茎頂観察、糸状菌の顕微鏡観察と撮影の仕方						2		
10～12	微生物活用の実際(講義)						1		
	農大牛乳を使った乳酸飲料の製造						2		
13～15	南九州大学の講座で使用する実験器具の取り扱い方法						2		
	評価試験						1		
授業時間外に必要な学修	○実験が主の授業であることから、全てを受講する事を基本とする。(公欠・病欠は除く) ○講義資料の復習と保管に取り組む。(資料:講師準備) ○農場現場での汚れを持ち込まない清潔な服装で実験に臨む。(白衣着用) 場所:生物工学実験室								
再試験及び補習対象の実施基準	○管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。								